

	学力状況について	学習状況について																												
児童生徒の状況課題	<p>○単元末テストから <平均点(上段)とC層(60点以下、下段)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>【国語】</th> <th>【算数】</th> <th>【理科】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>94点 1%</td> <td>96点 1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>90点 2%</td> <td>84点 10%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>84点 3%</td> <td>83点 4%</td> <td>87点 1%</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>88点 2%</td> <td>83点 4%</td> <td>88点 3%</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>87点 4%</td> <td>84点 5%</td> <td>88点 2%</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>88点 1%</td> <td>91点 1%</td> <td>87点 1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・国語では、漢字の読み書き、言葉の意味、品詞の使い方等について継続した学習が定着につながっている。文章の読み取りは、毎日の音読の取組が力を高めている。しかし、問いに合う答えになっておらず、問いと答えの整合性を強く意識させることが必要である。</p> <p>・算数では、低学年から「数と計算」の定着を徹底することが重要であり、それが中・高学年での小数や分数、面積や体積の習熟につながっている。思考・判断力については、図や数直線などによって答えを予測したり情報を整理して問題を解いたりすることが弱いことが分かる。</p> <p>・理科では、観察や実験を通して、情報処理や実験方法を身につけ、基礎的な理科用語についても理解ができています。</p>		【国語】	【算数】	【理科】	1年	94点 1%	96点 1%		2年	90点 2%	84点 10%		3年	84点 3%	83点 4%	87点 1%	4年	88点 2%	83点 4%	88点 3%	5年	87点 4%	84点 5%	88点 2%	6年	88点 1%	91点 1%	87点 1%	<p><児童・保護者アンケートから></p> <p>○早寝(低学年9時、中学年9時半、高学年10時)ができています。 (児童)72.6% (保護者)75.9%</p> <p>○家で、学年×10+10分の勉強をしている。 (児童)87.5% (保護者)85.7%</p> <p>○ゲームやSNSをしたり、テレビや動画を見たりする時は、家のきまりを守っている。 (児童)89.7% (保護者)85.8%</p> <p><子どもの実態から></p> <p>・言葉を発することは重要である。昨年度は、コロナ禍による学習形態はどうすればよいか、探りながら授業を進めてきた。話し合い活動を極力減らし、多くの関わり合いを制限した学校生活であった。今年度は、手洗いうがい・換気を心がけつつ、話し合い活動を徐々に戻し学び合いの場を増やしてきた。その結果、一人一人が考えをもち、伝える必要性が生まれ、学ぶ意欲の高まりや語彙力の向上につながっている。</p> <p>・算数の「数と計算」領域の低学年での定着は、今後の算数指導に大きく影響する。(特にかけ算九九、くり上がり・くり下がりのあるたし算ひき算)また、面積図と数直線を書けること、見通しをもたせて課題解決に向かうことが必要である。</p> <p>・主体的に学ぶためには、自ら課題を持ち追究する意欲をもつ必要がある。そのためには、子ども自ら「解決したい」ということを課題に設定する必要がある。さらに、課題解決の時間や場所、ツールの保障をしていく必要がある。</p>
	【国語】	【算数】	【理科】																											
1年	94点 1%	96点 1%																												
2年	90点 2%	84点 10%																												
3年	84点 3%	83点 4%	87点 1%																											
4年	88点 2%	83点 4%	88点 3%																											
5年	87点 4%	84点 5%	88点 2%																											
6年	88点 1%	91点 1%	87点 1%																											
指導の状況課題	<p>○国語科の「言葉の特徴やきまりに関する事項」の指導の徹底を図る →音読・漢字を毎日の課題とする →授業の導入で音読や漢字を取り入れる →めあて、課題を位置付け、見通しをもって考える</p> <p>○算数科の「速く正確な計算力」が付くよう各学年の指導の徹底を図る →計算力の定着・向上のため復習プリントや計算ドリルの継続した活用 →授業開始時に短時間でできる復習問題の実施 →C層への補充指導(放課後や空き間等を使った習熟指導)(高学年は少人数指導)</p> <p>○理科では、プリントや自学などで基礎的基本的知識を定着させるとともに、目的や考察を明確にして実験をさせるなど、技能・思考判断力をつける →週末プリントの継続した利用</p>	<p>○「1時間完結」型授業の取組の徹底 ・めあて、課題、まとめ、振り返りを明確に位置付けた授業の実施 (国語・算数・理科を中心に)</p> <p>○学習規律の徹底 ・「今月の学習のめあて」を意識させ規律の徹底を図る ・忘れ物0、チャイム着席。「聞く・話す・発表」などの学習ルール の定着 ・ノート指導、名前を呼ばれたら返事をさせる</p> <p>○家庭との連携 ・「家庭学習の手引き」を利用した児童への指導と保護者啓発 (家庭での時間の使い方、メディアとの関わり方)</p> <p>○読書習慣の定着 ・多読賞推奨、図書館利用時間の確保</p>																												

<p>目指す児童生徒像</p>	<p>【検証指標】 ○授業が終わった時に、「分かった・できた」という気持ちになっている児童 93% ○「ノートを丁寧に書いている」と回答する児童 80%以上 ○単元末テストで国語、算数、理科の平均点が87点以上、C層（60点未満）4%以下</p>	<p>【検証指標】 ○授業が終わった時に、「分かった・できた」という気持ちになっている児童 91.6% ○「ノートを丁寧に書いている」と回答する児童 81.6% ○単元末テスト <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>国語</td> <td>算数</td> <td>理科</td> </tr> <tr> <td>平均(点) 88</td> <td>87</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>C層(60点未満%) 2</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </table> </p>	国語	算数	理科	平均(点) 88	87	87	C層(60点未満%) 2	4	2
国語	算数	理科									
平均(点) 88	87	87									
C層(60点未満%) 2	4	2									
<p>今後の具体的な取組</p>	<p>①授業改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の徹底⇒「今月の学習のめあて」に学校全体で取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・机上の準備とチャイム着席 ・けじめのある授業のあいさつ、教師の言葉遣い ・椅子の座り方 ○3つの授業改善と主体的・対話的で深い学びの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・「1時間完結」型授業の徹底 <めあて、課題、まとめ、振り返り> ・子どもが「解決したい」と思う疑問から「課題」を設定する授業展開 ・板書の構造化（学習の振り返りができる板書）、板書とノートの一体化 ・一斉、個別などの学習形態を工夫し、個に応じた指導の徹底 ・話す時間く時の基本的ルール（心をつないだ伝え合い） ・問題解決学習における課題の見出しから解決に至るまでの一連のプロセスの中で、思考・判断・表現力の育成を意識した学習活動の展開 ・理科では、実験・観察の工夫や理科用語の習熟指導 <p>②その他の学習指導の取組（補充指導等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週火曜朝にチャレンジタイムを設定し、「数と計算」を中心にスキルアップに取り組む ○ノート指導の徹底及び「滝小ノート検定」の実施（年1冊以上チャレンジ） ○評価規準をもとに、単元末に子どもの定着度評価の実施 ○学習部会による学習状況の情報共有と指導内容の検討・充実 ○学年末に標準学力調査実施（4年生）とフォローアップシートによる弱点克服 <p>③学習状況改善の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の定着を図る一つの方法として、テレビやゲーム等メディア使用の時間の見直しを指導 ○自分なりの具体的な目標を立て、目標に向かって粘り強く努力できる生活態度の確立 ○教科および質と量のバランスを考えた家庭学習の準備 ○前学年の学習を、週末課題等で定期的に復習 										
<p>家庭・地域との協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との協働 <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭に、年度当初配布した「家庭学習の手引き」を基に、9年間を見通した家庭学習の在り方と習慣化の啓発を図る。 （毎日の学習時間＝学年×10＋10分の達成） ・各家庭に、「メディア利用カード」や取組を働きかけ、メディアとの向き合い方を考えたり、規則正しい生活の大切さを考えるきっかけにしよう。 ・各家庭に、学習内容の定着の様子や学校での対応について通信等で知らせ、不安を取り除くようにする。 ○地域との協働 ※今年度はコロナ感染予防のため状況を見て実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域学習ボランティアによる体験学習と本わかタイム（読み聞かせ）の充実 ・授業公開及び地域との交流（年間4回の学校公開日を設定） ・体験学習等で地域に出かける活動や、地域の人と交流をもつ活動の充実 										